

## ボールパスラリー Ⅰ

～キャッチボールを行い、3分間に何回捕球することができたかを競う～



## (1) 準備する物

- ・ドッジボール1号級以上の大きさのボール
- ・ストップウォッチ

## (2) 事前の準備

- ・投球ラインとなる2本の線を引く。

小学校 低学年 5m間隔

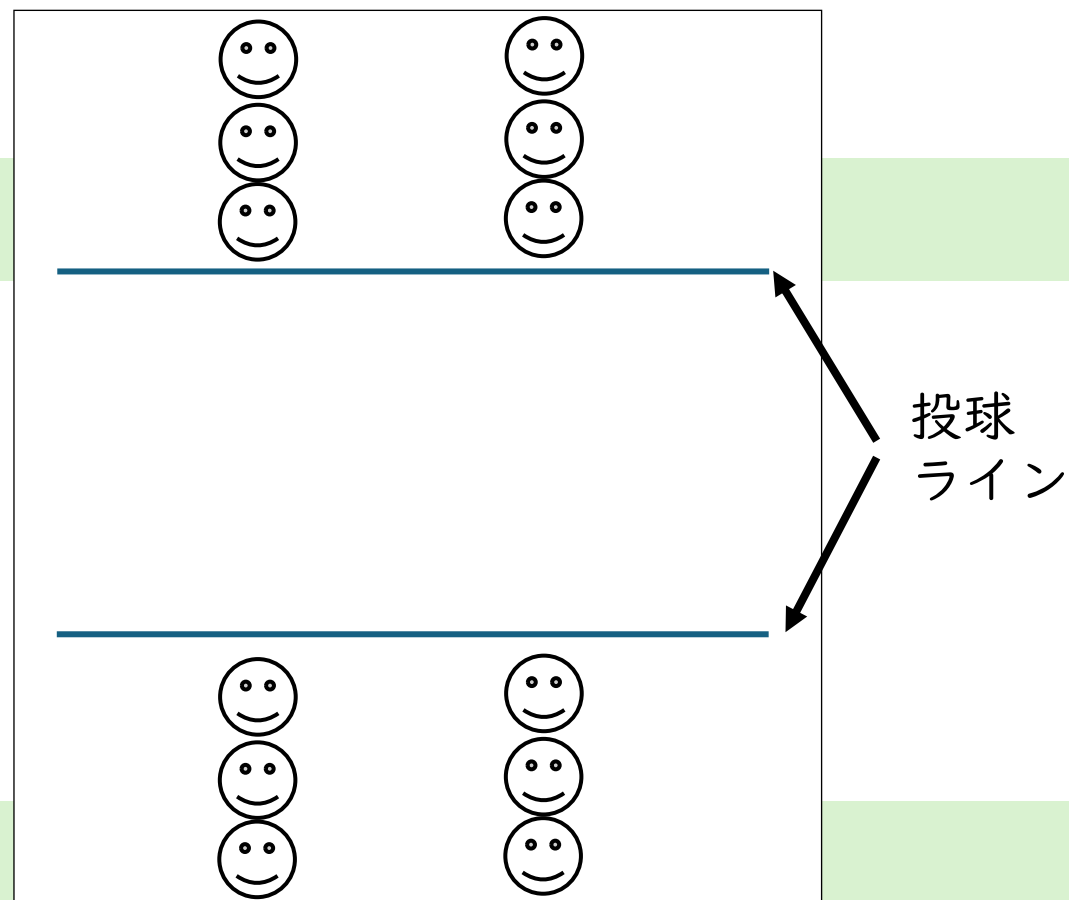
中学年 7m間隔

高学年 10m間隔

中学校 10m間隔

## (3) グループの編成

- ・3人以下の学級は1つのグループで実施。4人以上の学級は1つのグループ、または、複数のグループを編成して実施することが可能。
- ・1人の学級は異学年の児童・生徒を加え、2人で実施。



## (4) やり方

- ・各グループほぼ半数となるように分かれ、ライン後方に縦1列で向かい合って並ぶ。
- ・計時を行う教職員の「はじめ」の合図で投げ始め、3分後の「終わり」の合図でやめる。
- ・投球した者は、同じ列の最後尾に並ぶ。（2人で行う場合は移動を行わない。）

## (5) ルール

- ・落球しなければ、ファンブルした後、ボールを保持した場合も捕球とする。
- ・投球ライン内で捕球及び投球はしてはいけない。ただし、落球したボールが投球ライン内に入った場合は、中に入ってボールを拾ってもよい。  
また、投球ラインを踏んだり投球ラインの中に入って投げたりした場合は、相手が捕球しても捕球回数に入れない。同様に、投球ラインを踏んで捕球したり投球ラインの中に入って捕球したりした場合も、捕球回数に入れない。
- ・キャッチボールをする2人以外はボールに触れてはいけない。落球したボールはキャッチボールをする者が拾いに行く。

## (5) ルール

- ・ 投球はノーバウンドで相手に届くように投げることが望ましいが、投球ライン内でバウンドしてしまった場合も、投球ライン後方でボールを捕球すれば捕球回数に入れることができる。
- ・ 投球フォーム、助走及びステップの距離は自由とし、投球後は投球ラインの中に入れてもよい。

## (6) 記録と参加人数

- ・ 1つのグループで実施した場合は、そのグループが捕球した回数を記録とする。
- ・ 複数グループをつくって行った場合は各グループの捕球回数の合計をグループ数で割り、その平均回数を記録とする。平均回数が小数となった場合は、小数第3位を切り捨て、小数第2位までとする。
- ・ 複数のグループで実施した場合、実施日はすべて同じでなければならない。
- ・ 参加人数はグループの児童・生徒の合計とする。
- ・ 異学年の児童・生徒と行う場合は、記録の申請は上の学年で行う。